

## 「今の」+ 固有名詞・「昔の」+ 固有名詞

北野 浩章

日本語教育講座

### *Ima no + Proper Noun, Mukashi no + Proper Noun*

Hiroaki KITANO

*Department of Teaching Japanese as a Foreign Language,  
Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan*

#### 1. はじめに

本論文では、次のような構文を扱う。A、Bはいずれも固有名詞である。

- (1) a. Aは、今のBです。
- b. Aは、昔のBです。

奇妙なことに、次の(2a)、(2b)はどちらも文法的に容認可能である。この研究は、このような素朴な発見から始まっている。

- (2) a. 信濃は、今の長野県です。
- b. 信濃は、昔の長野県です。

このような「XのY」を含む構文の不思議さと、一般に修飾句「今の」「昔の」はどのような意味・機能を有しているのかを分析することが、本論文の目的である。

一般に「XのY」という句において、「Xの」は「Y」に意味的な限定を加えている場合が多いが、そうでない場合もある。さらに「今のY」「昔のY」においては、「意味的な限定」のあり方が一様ではない。この論文では、考察対象は「今の」+固有名詞、「昔の」+固有名詞という非常に狭いものであるが、「意味的な限定」について再考する一歩となることを目指しており、本論文の意義はそこにある。内省から得られる例、および国立国語研究所の「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)から採集した例をデータとして議論をする。

本論文の構成は以下の通りである。第2節で、何が問題となるのか、いくつかの例文とともに紹介する。第3節では、「XのY」という連体修飾構造の先行研究を紹介する。第4節で事例の観察と分析を行い、第5節で現象への説明を試みる。第6章は主に今後の課題を述べる。

## 2. 問題点、および関連する諸例文

最初に挙げた例文 (1) は、西山 (2003) が分類するコピュラ文のうち、「ジキル博士はハイド氏だ」のような「倒置同一性文」に相当する。また、A、B二つの名詞句はともに固有名詞（したがって、指示的名詞句）である。

これらの例文の固有名詞の部分には、地名だけでなく人名、組織名などがくることもある。ただし、以下の (b) 文の方に、若干の不自然さを感じる話者もいるかもしれない。

- (3) a. 丸山明宏は、今の美輪明宏です。  
b. 丸山明宏は、昔の美輪明宏です。
- (4) a. 大洋ホエールズは、今の横浜 DeNA ベイスターズです。  
b. 大洋ホエールズは、昔の横浜 DeNA ベイスターズです。
- (5) a. 東海銀行は、今の三菱東京UFJ銀行です。  
b. 東海銀行は、昔の三菱東京UFJ銀行です。

厳密を期せば、東海銀行は三菱東京UFJ銀行の母体となった銀行の一つであり、完全に同一のものではない。しかし、日本語文としての解釈には影響はない。

さらに例文を追加する。上で挙げた例文で、A、Bを入れ替えると、次のようになる。

- (6) a. #長野県は、今の信濃です。  
b. ?長野県は、昔の信濃です。

(6a) は事実と異なり、意味的に不適切である（そのことを示すために、#を付ける）。すなわち「今の」という表現と、旧国名である「信濃」が矛盾している。一方 (6b) は、「昔の信濃」という表現が解釈しにくい、理解できないほどではないと思われる。ただ、なぜ不自然ではないのかは不明であり、本論文でも取り上げない。

同じように、人名や組織名でも確認しておく。

- (7) a. #美輪明宏は、今の丸山明宏です。  
b. ?美輪明宏は、昔の丸山明宏です。
- (8) a. #三菱東京UFJ銀行は、今の東海銀行です。  
b. ?三菱東京UFJ銀行は、昔の東海銀行です。

具体例を離れるとかえってわかりにくくなるかもしれないが、整理すると次のようになる。

- (9) a. 【旧名称】は、今の【新名称】です。  
b. 【旧名称】は、昔の【新名称】です。
- (10) a. #【新名称】は、今の【旧名称】です。  
b. ?【新名称】は、昔の【旧名称】です。

### 3. 名詞を修飾する「～の」

「XのY」という表現について、ここで加藤（2003）の分析を取り上げる<sup>1</sup>。関連する議論は2点あり、以下の3.1および3.2で順に取り上げる。

#### 3.1 意味的な限定

以下の例では、「Xの」で修飾されることによって、Yに意味的な限定が生じている。すなわち、論理的外延が狭まっている（加藤2003：495-6）。

- (11) a. 富山大学の学生
- b. 不合格の学生
- c. 大学院志望の学生
- d. 太田先生の学生（加藤2003：495）

しかし、実際に論理的外延が狭まるかどうかは、語用論的知識に依存しているとして、加藤は次の例を挙げる。

- (12) a. 第86代内閣総理大臣の小泉純一郎氏
- b. 国語学の山田先生（加藤2003：495）

(12a)では、修飾要素XがなくてもYは単一の指示対象であるため、論理的外延は狭まっていない。(12b)では、コンテキストによって、論理的外延が狭まることもあるし、そうならないこともある。同じ大学に山田先生が二人いれば、論理的外延は狭まっているが、そうでなければ、(12a)と同じく、意味的な限定は生じていない。以上が、加藤による「意味的な限定（論理的外延の狭まり）」が見られるかどうか、という観点での「XのY」の分類である。この観点は、以下の第4節で「今の」「昔の」を議論する際に用いる。

#### 3.2 叙事的な「の」、限定的な「の」

加藤はまた、《叙事的な「の」》《限定的な「の」》という区別を行っている。

- (13) a. 《叙事的な「の」》：XがYの《属性》を表すと解釈できる「の」
- b. 《限定的な「の」》：《属性》でない「の」

ただし、ここでの「限定的」とは、3.1で取り上げた「意味的な限定」ではないことに注意が必要である。《属性》を表さず、限定の機能でしか用いられないという意味である（加藤2003：496）。

この両者は、以下のようなテストで区別ができる（加藤2003：496-497）。まず、「である」による置き換えテスト（「XのY」⇒「XであるY」）である。置き換えられれば、原則として《叙事的な「の」》である（ただしこの変換は不自然な日本語になりがちで、決して万能ではない）。(11)の諸例を「である」で置き換えたのが次である。

- (14) a. ?富山大学である学生

- b. 不合格である学生
- c. 大学院志望である学生
- d. \*太田先生である学生

次に、装定を述定に変えるテスト（「XのY」⇒「そのYはXだ」）である。

- (15) a. その学生は富山大学だ。  
 b. その学生は不合格だ。  
 c. その学生は大学院志望だ。  
 d. ???その学生は太田先生だ。

(15a) も、おおよそ意味がわかり、不自然ではない。そこで、「富山大学の学生」「不合格の学生」「大学院志望の学生」までは《叙述的な「の」》であり、一方、「太田先生の学生」は《限定的な「の」》とする。なお、加藤によれば、この二つの「の」は連続的な関係にあり、明確な境界線を引くことができない（加藤2003：497）。

以上が加藤の分析である。これを本論文の「今のY」「昔のY」に当てはめてみると、「である」で置き換えたり、述定に変えたりしたものは、意味が取れない表現となる。

- (16) a. 今の長野県 → \*今である長野県  
 b. 昔の長野県 → \*昔である長野県
- (17) a. 今の長野県 → \*長野県は今である。  
 b. 昔の長野県 → \*長野県は昔である。

以上の例から、《叙述的な「の」》ではないと言える。だからといって、「今の長野県」や「昔の長野県」を（11d）「太田先生の学生」のような《限定的な「の」》に近いとも思えない。以下の実例を観察すると、「今の」「昔の」は、叙述的・限定的といった区別とはまったく異なる分析が必要だと思われる。

#### 4. 「今のY」「昔のY」

本論文の「XのY」において、Xは「今」「昔」に限られており、「富山大学」「不合格」といった名詞と比較すると、性質がかなり異なる。さらに、Yは固有名詞であるから、「意味的な限定」といっても、論理的外延が狭まるわけではない。そのため、本論文の「XのY」に、加藤の議論をそのまま適用することは難しい。

ただし、固有名詞が持つさまざまな面のうち、あるものに限定して述べる、ということはある。つまり、固有名詞Yの持つ諸相から、「今のYの一側面」または「昔のYの一側面」に限定をする、ということである。しかしながら、実際に実例を見ていくと、そのような限定が比較的わかりやすいものもあれば、限定がわかりにくい（限定されているように思えない）ものもある。それには、「今のY」「昔のY」が用いられる文やコンテキストが大きく影響している。本論文では、意味的な限定は「ある」「ない」とはっきり区別されるような性質のものではなく、限定の強さは連続的なものと考えておく。その上で、意味的

な限定がはっきり見られる例を4.1で、意味的な限定がほとんど見られない例を4.2で扱う。

最後に4.3では、「意味的な限定あり」「意味的な限定なし」のどちらでもない例を検討する。

以下では、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)からの例をもとに議論を行う。なお、該当する表現に下線を施して示す。

#### 4.1 意味的な限定がある例

まずは、「今の」+固有名詞の例から、意味的な限定がわかりやすいものを挙げる。

次の「今のキューバ」は、キューバの諸相から「今のキューバ」に限定しているということで、「意味的な限定」があると言える。その次の例の「今の朝青龍」でも、意味的な限定がある。

これらの例に見られる「今は」は、パラフレーズして言うなら、「昔とは違って、今は」「昔ではなく、今は」といったニュアンスであるが、常に今と昔を強く対比しているわけではない。文脈によって、対比のニュアンスの強さは異なるようである。

(18) 燃料切れの飛行機がハイウェイに緊急着陸することはときどきあると、運転手は事も無いげに言う。なるほど今のキューバなら何でもありだと妙に感心したのだが、カリフォルニアに帰ってから、前年アメリカに亡命したキューバ空軍の少佐が飛行機で舞い降り、マタンサスに住む妻と二人の子供を連れ去ったという事件を知った。(地名)

(19) 千代大海の師匠、九重親方(元横綱千代の富士)は「今の朝青龍には、千代大海が3人がかりでも勝てないよ」と1人横綱の充実ぶりを認める。(人名)

次は、「昔の」+固有名詞の例である。ここでも「意味的な限定」は認められる。「今とは違って、昔は」「今ではなく、昔は」といったニュアンスが感じられる。

(20) 私の主要な仕事はこうした若い人々に昔のバーミングハムが事実、どんな状態にあったかを伝えることだ。(地名)

(21) 「速見もこみち」って昔のチェッカーズのフミヤに似てませんか？ 昔のフミヤを身長大きくした感じに見えます。(人名)

(22) 昔の東証は上場基準が厳しく、限られた企業しか上場できませんでした。(組織名)

なお、固有名詞といっても、次の例で、歌舞伎役者の名前を固有名ととらえることには問題があるかもしれない。この例では、「いまの」は、数ある「仁左衛門」のうち、現在のその人を指している可能性がある<sup>2</sup>。そうだとすれば、「仁左衛門」は固有名とは呼べない。ただ当然のことながら、意味的な限定はある。

(23) しかも柄からいって渋味や風格も必要ですし、なかなか誰でもできる役ではありません。いまの仁左衛門、羽左衛門、権十郎などは適役だと言えるでしょう。(人名)

#### 4.2 意味的な限定がない例

次に、「今の」「昔の」に意味的な限定があるようには感じられない例を検討する。例え

ば、次の「今の三井物産」では、三井物産の諸相のうち、「今の、現在の」に限定しているという意味ではなく、発話時点での（書き言葉なので、「執筆時点での」）当該固有名詞に言及するために付けられた「今の」である。「昔とは違って、今は」とパラフレーズするのが適当ではない例である。

(24) 戦前、オヤジは中国大陸で、今の三井物産よりも大きい会社を経営していました。  
（組織名）

(25) アルタに支えられた今のソマリア暫定政権はアラブの出先機関に過ぎず、アルカイダを受け入れている悪の権化だ。（組織名）

「今の」だけでなく、「昔の」にも「意味的な限定」が見られない例がある。

(26) 今、昔の王さんのような、一本足打法で打っている選手はいますか？（人名）

(27) それこそ、昔のハンフリー・ボガードや、チャールズ・ブロンソンみたいな所謂「男臭い」感じや、「男の色気」を感じる様な男優は少ないんじゃないか？（人名、正しくはハンフリー・ボガート）

「昔の、すなわち現役時代の王貞治選手」は、現役時代を問題にしていると解釈できる。また「昔の、すなわち往年の俳優であるハンフリー・ボガートやチャールズ・ブロンソン」も、彼らの現役時代を問題にしていると考えられる。しかしこれらは、同一人物への言及であり、「昔の」を付けなくても文意は伝わる例である。

次の例で、「津軽」は旧国名であるから「昔」であることは当然だが、冗長とか過剰ということはなく、むしろ「昔の」があってしかるべきである。ただ、「昔の」には意味的な限定があるわけではない。

(28) 昔の津軽は、全行程二十二里八町の岩木川に沿うてひらけた津軽平野を中心に、東は青森、浅虫あたりまで、西は日本海海岸を北から下ってせいぜい深浦あたりまで、そうして南は、まあ弘前までとっていいだろう。（地名）

以上、4.1と4.2では、「意味的な限定」を、固有名詞にも拡大適用して分析を試みた。

### 4.3 対応指示の例

まず、次の例を観察してみよう。

(29) 語源はトルコ語の動詞カルマク（留まる、残る）に由来するといわれるが、今日まで、この語源に適切な歴史的意味を与えられた者はいなかった。私自身は、いまのウズベキスタンやカザフスタンに遠征し、そこで暮らすことになったモンゴル高原出身の諸部族が、故地に残ったオイラト部族連合の遊牧民を、「留まった者たち」という意味で、カルマクと呼んだのではないかと考える。（地名）

「いまのウズベキスタンやカザフスタン」は、モンゴル高原出身の諸部族がとどまった地域を指しているが、これは過去の出来事である。ウズベキスタン、カザフスタンは、とも

に現代の地名である。過去の出来事の場所が現代の地名でしか説明できないため、今・昔の対応を示すために「いまの」を使っている。ここで、意味的な限定を被修飾語に加えるのではない「今の」の用法が認められる。これを「対応指示」と呼ぶことにする。なお、4.1では「昔とは違って、今は」「今とは違って、昔は」のようなものを「対比のニュアンス」としたが、「対応指示」とは別のものである。

また、「今の」が、次のように括弧内の説明として用いられるケースがある。これらは、書き言葉に特有の表現であるが、「いまのウズベキスタンやカザフスタン」と同様の例として差し支えないだろう。これらは、本論文が対象としている「Aは、今のBです」という構文と同じ伝達意図を持つ表現である。

- (30) 大体仏教的な社会救済事業としては、聖徳太子が難波（今の大阪）の四天王寺に施薬・療病・悲田・敬田の四院をたてられたという伝説が一番早い話である。
- (31) これが私のいる西寮生なら親しいつきあいになれるのに、まずいことに西寮と対立する東寮（今の思誠寮）生であった。
- (32) 村一番の地主だった宮崎家もそのころ家計が窮屈になり、東京専門学校（今の早稲田大学）に入学していた滔天も中退して帰郷したのですが、故郷の農民の貧窮はそれどころではありませんでした。
- (33) それから私の実兄（細川隆志）が、そのころ関東配電（いまの東京電力の前身）に勤めていたが、私の兄のいうのに、

本論文では、「対応指示」とは、「XのY」のかなり特殊なケースとみている。Xは「今」に限定されるようである。「今のY」に対応する「昔の+固有名詞」が現れるケースがほとんどであるが、「いまのウズベキスタンやカザフスタン」の例では、「昔の+固有名詞」は表現されていない。

また、「今のY」は、「今は、Y」や「今なら、Y」のようなパラフレーズも想定できる。

## 5. 奇妙なコピュラ文に対する説明

第1節で挙げた奇妙なコピュラ文（以下に再掲）について、第4節での考察を踏まえて説明を試みる。

- (34) a. 信濃は、今の長野県です。
- b. 信濃は、昔の長野県です。

まず、(34a)は、4.3で提出した「対応指示」という概念で説明ができる。例えば、「難波（今の大阪）」などという実例を、コピュラ文の形（「難波は、今の大阪である」）にしたものである。

一方、(34b)の「昔の長野県」は、4節の最初に述べた「固有名詞が持つさまざまな面のうち、あるものに限定して述べる」に相当するのではないかと考えている。つまり、「長

野県」が持つ諸相のうち、「昔」という側面について限定するもの、というわけである。

また、(34b) とほぼ同内容の文を作ると、

(35) 昔の長野県は、信濃と呼ばれていた。

となり、以下の実例（例22の再掲）に現れる「昔のY」と意味的にも近くなる。

(36) 昔の東証は上場基準が厳しく、限られた企業しか上場できませんでした。

しかし、このようなパラフレーズを証拠としていいものかという疑問もある。元の(34b)「昔の長野県」と(36)「昔の東証」とを、文内の要素として比較すると、同じように感じられないことも確かである。本来のコピュラ文は、構造は単純でも意味的に複雑である。この説明はなお検討を要するものだが、暫定的な結論としておく。

## 6. おわりに

「今の」「昔の」という表現には、連体修飾の一つである「Xの」の一般的な説明を、そのまま適用することが難しい。さらに「今のY」「昔のY」において、Yが固有名詞である場合は、別の説明が必要である。説明のための概念として「対応指示」というものを提案した。しかし、説明は部分的なものにとどまっており、また説明のできていないことも多く、なお検討が必要である。

本論文では、固有名詞についての議論は不十分であった。参照すべき論考が多数あるにもかかわらず、議論を展開することはできなかった。また、コピュラ文についての慎重な考察も欠けている。すべて今後の課題としたい。

## 注

- 1 「の」による連体修飾の研究としては、加藤（2003）の他に大島（2010）も重要である。さらに外国語の「の」相当表現と対照した研究などがある。
- 2 この文が書かれた年代から判断して、「いまの仁左衛門」とは、十三代目片岡仁左衛門のことと考えられる。

## 参考文献

- 大島資生（2010）『日本語連体修飾節構造の研究』ひつじ書房  
加藤重広（2003）『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房  
西山佑司（2003）『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』ひつじ書房

(2017年9月25日受理)